

上海新華書店旧蔵書について ——連環画を中心に

中野 徹

近畿大学文芸学部特任講師

zhongye@kindai.ac.jp

はじめに

1. 連環画について
 - 1.1 中華民国時期の連環画
 - 1.2 中華人民共和国時期の連環画
 - 1.3 日本国内における連環画の所蔵状況
 2. 上海新華書店旧蔵書の連環画について
 - 2.1 新華書店について
 - 2.2 上海新華書店旧蔵書の資料的価値
- おわりに

1. 連環画について

連環画 (“連環図画”、“小人書”)

中国で出版されている、一頁一コマの
絵に解説文が施された絵物語
連続した絵でひとつの物語がつづられる

判型

“開本”(中国の印刷用紙の裁断方法に
よる書籍のサイズ)でいうと、“60 開”か
“64 開”の大きさのものが一般的

種類

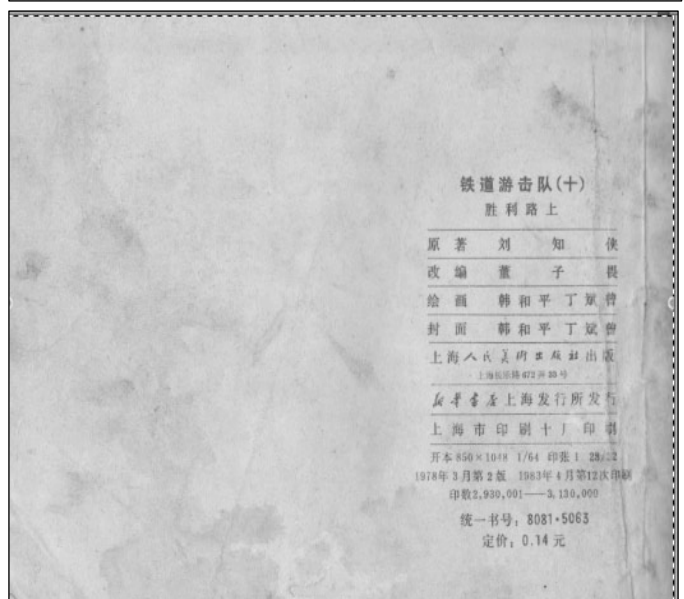
線描画が多い

映画や演劇のスチル写真を用いたもの
もある

ともに連環画『鉄道遊撃隊』(上海人民美術出版社、1978)
上 第二冊「飛車奪槍」下 第十冊「勝利路」



(32) 车门口是一挺机枪,老洪跳进车厢,顺手捞起就往外丢,接着把摸到的稻草捆,子弹箱,接二连三地丢下去。



铁道游击队(十)
胜利路上

原著	刘知侠
改编	董子健
绘画	韩和平丁斌曾
封面	韩和平丁斌曾
上海人民美术出版社出版 上海人民美术出版社	
上海书店上海发行所发行	
上海市印刷十厂印刷	
开本 850×1092 1/64 印张 1.28/0.2	
1978年3月第2版 1983年4月第12次印刷	
印数 2,930,001—3,130,000	
统一书号: 8081·5063	
定价: 0.14 元	

1.1 中華民国時期の連環画

1920 年代の上海でさかんに出版される

主なジャンル

通俗小説がメイン

古典小説、神怪小説、武俠小説

特徴……吹き出し付のものが多い (映画の影響?)

連環画に対する知識人の評価

茅盾「連環図画小説」(1932)

上海の大通りや路地には無数の小さな本屋の露天が歩哨のようにびっしりと広がっている。本の露天というけれど、上海では実のところ壁に特製の木の板を二枚たてかけられ、さまざまな判型の同じ小さな本が膏葉を貼るようにびっしりとならべている。この“本の露天”—われわれが本の露天と呼ぶならば、あたりには木の腰掛けがひとつある。誰かが銅貨を二枚だせば、その腰掛けに座ってその露天の小さな本を二十冊か三十冊借りて読めるのだ。もし“なじみ”であれば、四十冊五十冊借りられるが、きまりはない。

貸本屋の盛況

読者層 10歳くらいの小学生 商人や労働者の子どもを中心に

15歳くらいの見習い工や成人の労働者

主は図画であり、文章の部分は補助に過ぎない

ねらいは文字が少しばかりわかる読者を満足させることにある

→ “民衆教育”の道具

魯迅「論“第三種人”」(1932。のちに『南腔北調集』所収)

連環画はミケランジェロを生み出すことができる

「“連環図画”弁護」(1932。のちに『南腔北調集』所収)

連環画は芸術となりうる

魯迅の木版画提唱

→ 宣伝の道具

→ 連環画も宣伝の道具となりうる

1.2 中華人民共和国時期の連環画

連環画改革

社会主義の国家建設にふさわしいものへ

→連環画は、政策の宣伝、科学知識の普及などの役割を担う

→“掃盲”の役割も期待

『全国総書目 (1949-1954)』(新華書店総本店、1955)の「連環画」

- | | | |
|---------------------|------------------|------------|
| 61 政治運動、社会改革 | 62 朝鮮戦争での反米朝鮮支援 | 63 戦闘の物語 |
| 64 反帝国主義、反スパイ、反封建主義 | 65 婚姻法の普及 | |
| 66 中ソ友好、ソ連紹介 | 67 労働者の生活 | 68 農民の生活 |
| 69 部隊生活 | 610 建設プロジェクト | 611 科学知識普及 |
| 612 歴史地理の知識 | 613 医薬衛生 | 614 子どもの物語 |
| 615 童話、民間故事 | 616 古典文学・芸術、歴史物語 | |
| 617 伝記 | 618 映画演劇 | |

“革命歴史故事”の増加

日中戦争(抗日戦争)や国共内戦を題材とした小説は連環化

→旧来の武俠小説の連環画を書店から駆逐。

連環画書店の統一

上海

上海“解放”後、公営私営の出版機関 510 のうち、連環画関係のものは 110

(余嘉輯録「建国初期上海書店、出版社情況摘録一一一」(『出版史料』1988 年第 1 期))

出版社の統廃合されてゆく

1951 年 新華書店の編集部の人員をもとに華東人民出版社設立

同社に連環画科が設けられる

1952 年 8 月までに 174 種の連環画を発行

新美術出版社成立

1952 年 華東人民美術出版社成立(新美術出版社は吸収される)

『連環画報』の創刊

北京で 1951 年創刊 人民美術出版社刊 連環画専門誌

画家たちの活躍

画家の卵たちの活躍の場

美術学校に通う学生が筆をとる

全国連環画創作評奨授奨大会

1963年12月26日 於北京中国美術館

1949年から1963年4月末までに出された作品が、全国各地から2000以上選ばれる

絵画第一等賞

賀友直『山郷巨変』

劉繼貞『窮棒子扭転乾坤』

丁斌曾・韓和平『鉄道遊撃隊』

趙宏本・銭笑呆『孫悟空三打白骨精』

王叔暉『西廂記』

第二等賞

顧炳鑫『渡江偵察記』など12部

第三等賞

35部

脚本第一等賞

張再学『鷄毛信』

姜維朴『窮棒子扭転乾坤』

費声福・呉兆修『風暴』

董子畏『屈原』

第二等賞

董子畏『鉄道遊撃隊』など8部

第三等賞

15部

審査委員会

葉浅予、蔡若虹、邵宇、華君武、王朝聞、力群、羅工柳

郭鈞、趙堅、姜維朴、王冠安

“文化大革命”期

1966—69年……創作の空白

1970年以降……革命模範劇

“文化大革命”後

1978年以降、再版される

→1980年代以降、連環画創作は下火に

1990年代以降

コレクターたちによるブーム……読み物から骨董品へ

高騰する値段

リプリント

連環画研究にとってプラスとマイナス

→一次資料の資料収集を困難に

1.3 日本国内における連環画の所蔵状況

連環画は、国立国会図書館を除けば、日本国内の図書館にはほとんど所蔵されていない

滋賀県立大学図書館陳コレクション

武田雅哉氏(北海道大学文学部教授)の個人の蔵書

2. 上海新華書店旧蔵書の連環画について

2.1 新華書店について

新華書店 1937年に中国共産党の革命の聖地である延安（陝西省）で創業された
中華人民共和国成立後は、販売網が整理され、新華書店総店と各地の新華書店が、全国の書籍
や雑誌の発行、流通、販売を管理する

『全国総書目』

新華書店総本店が出版。新華書店が発行および販売した書籍を網羅

新華書店の“様書”、“様本”について

新華書店旧蔵書に押されている“様書”や“様本”の印
出版社から新華書店に献本されたことが窺える
献本の制度については未詳

新華書店の見本品の流出

連環画市場においては、“新華書店様書”の印が押されている連環画も多く取引されている
→ 中国国内での流通する連環画の古書の大部分
図書館をはじめとする公的機関からの流出したもの

2.2 上海新華書店旧蔵書の資料的価値

デジタル資料の普及

中華民国期

「大成老旧刊全文数拠庫」（有料）、中華民国期に出版された刊行物が閲覧可

中華人民共和国時期

「CNKI」（有料） 日本国内で未所蔵や入手困難な雑誌が閲覧可

中国国内の博士論文も閲覧可

「上海新華書店旧蔵書」

1950年代、60年代研究の貴重な一次資料の宝庫

国立国会図書館関西館「上海新華書店旧蔵書」

政治運動により、回収、絶版とされた版本の存在

小説の版本研究

連環画研究の可能性

鴫田潤氏作成「国立国会図書館関西館所蔵中国連環画書名一覧」

(『アジア情報室通報』第9巻第4号、2011年12月、2-12頁)

検索の簡便化、資料へのアクセスをより容易に

・連環画絵師研究

連環画絵師の系統だった研究が可能

・連環画出版研究

奥付の“書號”……連環画出版社の出版計画

・作品研究の受容研究

『鉄道遊撃隊』……幻の版本

・政治運動を別の側面から検証可能

『武訓伝』批判 (1951～)

武訓 (1838-1896) 清末に乞食をしながら資金を集め、義学を興す

1940年代、教育者の陶行知らによって武訓は再評価される

映画『武訓伝』(孫瑜監督、崑崙影業公司、1950)

→1951年5月20日 『人民日報』 毛沢東による批判

一大批判キャンペーンに発展 → “文化大革命”まで続く知識人批判の嚆矢

武訓を描くふたつの連環画

李士釗編著、孫之儁絵画『武訓画伝』(上海万葉書店、1951)

米谷等『封建奴才—武訓』(華東人民美術出版社、1953)

・社会風俗研究の資料

どのように連環画が読まれていたか

連環画が描かれた時期の社会風俗を窺い知ることのできる資料

・1950年代の中国の出版研究

他の児童向け書籍の研究

「通俗読物」研究